

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2009年第46週
(11月9日～11月15日)

- * 2009年11月18日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は月報告(2009年10月)の疾患と感染症豆知識「新しい日本脳炎ワクチン」も掲載しています。

平成21(2009)年11月19日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2009年46週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		43週	44週	45週	46週	年累計	46週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	75	58	40	44	3506	246	22690
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ	1				3		15
	細菌性赤痢		1		4	43	6	160
	腸管出血性大腸菌感染症	9	7	2	6	295	36	3571
	腸チフス					10	1	26
	パラチフス					11		22
四類	E型肝炎					6		46
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1	1	1	21	1	104
	エキノкокクス症					1		20
	黄熱							
	オウム病					1		19
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサナル森林病							
	Q熱					1		2
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病				1	4	32	199
	デング熱		4	1		31		80
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱						2	112
	日本脳炎							2
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症					1		2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア	1				25		52
野兎病								
ライム病					1		7	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症		2		2	47	8	591	
レプトスピラ症							12	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		43週	44週	45週	46週	年累計	46週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	3	4	1	124	7	672
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	1	1			31	1	191
	急性脳炎 *2	7	1	1	1	36	13	333
	クリプトスポリジウム症				1	3		15
	クロイツフェルト・ヤコブ病			2	1	15	4	120
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					9		90
	後天性免疫不全症候群	8	5	8	7	414	12	1232
	ジアルジア症	1	1			21	1	66
	髄膜炎菌性髄膜炎					1		9
	先天性風しん症候群							1
	梅毒	2	4	4	2	173	9	601
	破傷風				1	7	1	104
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					12	2	91
	風しん	1				18		139
麻しん	1		4	2	108	4	702	
新型※	新型インフルエンザ ※2 ※3	—	—	—	—	1187	—	5038
2009/11/18計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※新型インフルエンザ等感染症 ※2 2009年4月28日に指定された。2009年4月28日から7月23日の期間は全数届出。

2009年7月24日から8月24日の期間は集団発生事例に関連した届出。

※3全国集計は7月24日6:00現在の国内発生の累計値(検疫対象者を含まない。)

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 44件 肺結核23件、その他の結核6件、肺結核及びその他の結核2件、無症状病原体保有者12件、疑似症患者1件で、推定感染地は国内43件、国内及び国外1件、年齢は10歳代1件、20歳代4件、30歳代5件、40歳代5件、50歳代5件、60歳代10件、70歳代5件、80歳代7件、90歳代2件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 4件 菌種はディセンテリ1件、ソネ2件、不明1件で、推定感染地は国内2件、インドネシア(バリ島)1件、タイ及びベトナム1件、感染経路は飲食物による経口感染3件、その他(不明)1件であった。

腸管出血性大腸菌感染症 6件 患者4件、無症状病原体保有者2件。血清型・毒素型はO157(VT1VT2)2件、O157(VT2)1件、O157(毒素型不明)2件、血清型不明(VT2)1件で、年齢は5歳未満1件、10歳代1件、20歳代2件、40歳代1件、60歳代1件であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 1件 推定感染地は国内で、感染経路はその他(不明)であった。

つつが虫病 1件 推定感染地は多摩地域であった。

レジオネラ症 2件 どちらも肺炎型で、年齢は70歳代。推定感染地は国内で、推定感染経路は水系感染(温泉)1件、その他(不明)1件である。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 1件 腸管及び腸管外アメーバ症で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(異性間)であった。

急性脳炎 1件 病原体は新型インフルエンザウイルスで、年齢は5歳未満であった。

クリプトスポリジウム症 1件 推定感染地はニカラグアで、推定感染経路は飲食物(寿司)による経口感染であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病 1件 家族性CJDで、年齢は80歳代であった。

後天性免疫不全症候群 7件 無症候キャリア5件、AIDS2件。無症候キャリアの年齢は20歳代2件、30歳代2件、40歳代1件、AIDS患者の年齢は30歳代1件、50歳代1件である。全て推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間)であった。

梅毒 2件 どちらも早期顕症梅毒Ⅱ期で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間)であった。

破傷風 1件 患者は70歳代で、創傷からの感染が疑われている。

麻しん 2件 麻しん(検査診断例)1件、修飾麻しん(検査診断例)1件で、年齢は5歳未満1件、50歳代1件、麻しん含有ワクチン接種歴は1回1件、不明1件であった。

※第45週該当分として、五類 後天性免疫不全症候群 1件(その他)、五類 麻しん 2件(麻しん検査診断例)の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2009年46週

定点種別	対象疾患	2009年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		43週	44週	45週	46週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	12	14	16	15	0.10	148	150
	咽頭結膜熱	11	5	10	14	0.09		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	114	132	107	138	0.93		
	感染性胃腸炎	324	324	309	431	2.91		
	水痘	72	74	78	93	0.63		
	手足口病	75	50	57	42	0.28		
	伝染性紅斑	16	12	13	8	0.05		
	突発性発しん	93	71	67	72	0.49		
	百日咳	2	6	2	5	0.03		
	ヘルパンギーナ	29	21	17	15	0.10		
	流行性耳下腺炎	117	80	83	114	0.77		
	不明発しん症 (注1)	16	10	5	4	0.03		
MCLS (川崎病) (注1)	2	1	2	4	0.03			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	7,301	8,073	7,330	7,076	24.57	288	290
眼科	急性出血性結膜炎	1	1	0	2	0.05	39	39
	流行性角結膜炎	17	16	14	5	0.13		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	1	0	1	1	0.05	22	24
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	5	5	3	7	0.32		
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	2	2	0	1	0.05		
2009/11/18集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS (川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

・インフルエンザの定点当たり報告数は2週連続して減少した。しかし依然として警報が出ている状況であり、注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

中野区保健所管内定点医療機関

・感染性胃腸炎: 例年流行しているはずの感染性胃腸炎の発生があまりみられません。これも新型インフルエンザ出現の影響でしょうか。

北区保健所管内定点医療機関

・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 2名は家族内感染。

* インフルエンザに関するコメントは13～14頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2009年46週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	5			4	2			1		
～11か月	1	3	1	23	4	1		18		
1歳	7	2	3	42	15	18		44		3
2歳	2	1	6	36	13	16	1	6		2
3歳		1	4	29	18	4	1			
4歳		6	9	36	16	1	2	1		2
5歳			25	40	10	1	3	1		4
6歳			20	23	8			1		1
7歳		1	17	29	3					1
8歳			20	18	3					
9歳			9	19						
10～14歳			14	46		1				1
15～19歳			3	12						
20～29歳			7	74	1		1		5	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	15	14	138	431	93	42	8	72	5	15
先週比	-1	4	31	122	15	-15	-4	5	3	-2

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月			1	14		
～11か月		1		34		
1歳	7		2	153		
2歳	15	2		158		
3歳	20		1	278		
4歳	20	1		397		
5歳	19			508		
6歳	12			508		
7歳	6			569		
8歳	3			560		
9歳	6			552		
10～14歳	3			1618		
15～19歳				641		
20～29歳	3			382	1	1
30～39歳				339		3
40～49歳				257		
50～59歳				77	1	
60～69歳				19		1
70～79歳				10		
80歳以上				2		
合計	114	4	4	7076	2	5
先週比	31	-1	2	-254	2	-9

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2009年46週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		1
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		1
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計		2

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2009年46週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田		2								
中央区			3	10	1			2		
みなと	3	3	4	9	3	2		2		
新宿区		1	2	11		1		2		
文京			2	9		2				
台東		2		8				1		
墨田区				1		2		1		
江東区	1		5	11			1	2		1
品川区			7	12	1	1		3		
目黒区		1		5		1		1		
大田区	3	3	4	79	16	1	2	8	5	3
世田谷			3	14	5	5		1		
渋谷区				2						1
中野区	1		8	28	10			1		
杉並			3	29	1			4		
池袋			1	6				1		
北区				4	1	2		1		1
荒川区			2	9	1			1		
板橋区			2	12		1	1			
練馬区			1	7	3	1		7		1
足立			3	8	2	2				
葛飾区			2	12	5	12		4		
江戸川			2	6		2	2	7		1
八王子市	2	1	32	30	7	3	1	5		
西多摩			1	23	2			2		
南多摩	1		2	10	2		1	1		2
町田			34	45	22	1		4		4
多摩立川				5	1					
多摩府中			4	2	3	1		4		
多摩小平	4	1	11	24	7	1		7		1
島しょ						1				
東京都合計	15	14	138	431	93	42	8	72	5	15

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2009年46週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	2			36		
中央区				37		1
みなと	5		1	109		
新宿区		1	1	164		
文京				77		
台東				152		
墨田区				146		1
江東区	3			162		
品川区				182	2	
目黒区				56		
大田区	2			441		
世田谷	1			309		
渋谷区	2			103		
中野区	2			113		
杉並				329		
池袋				112		
北区	3			174		
荒川区		1		89		1
板橋区	2		1	149		
練馬区	2			264		
足立	1			269		
葛飾区	12			286		
江戸川	5			412		1
八王子市	15	2		427		
西多摩	10			329		
南多摩	1		1	339		
町田	16			511		
多摩立川				245		
多摩府中	15			531		
多摩小平	15			517		1
島しょ				6		

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		1
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		1
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	114	4	4	7,076	2	5
-------	-----	---	---	-------	---	---

東京都合計		2
-------	--	---

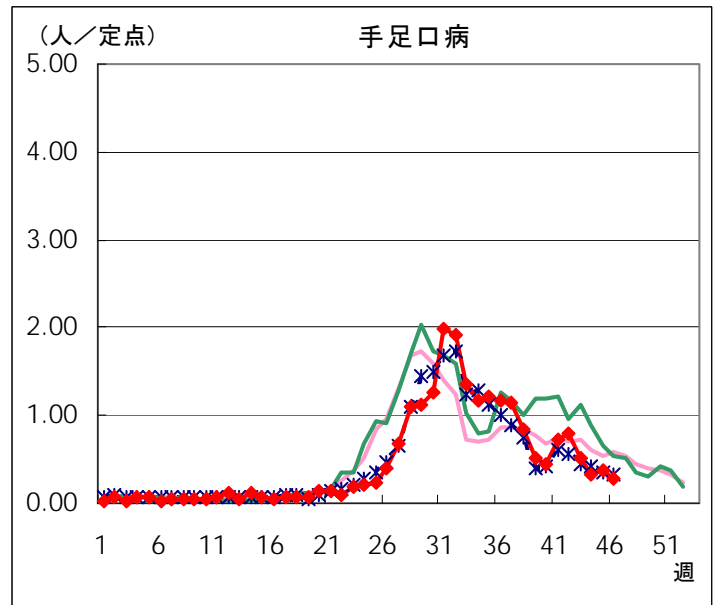
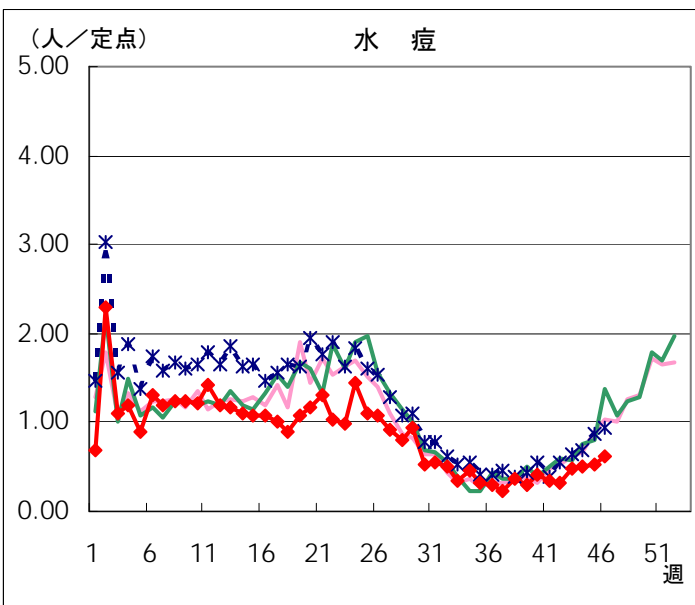
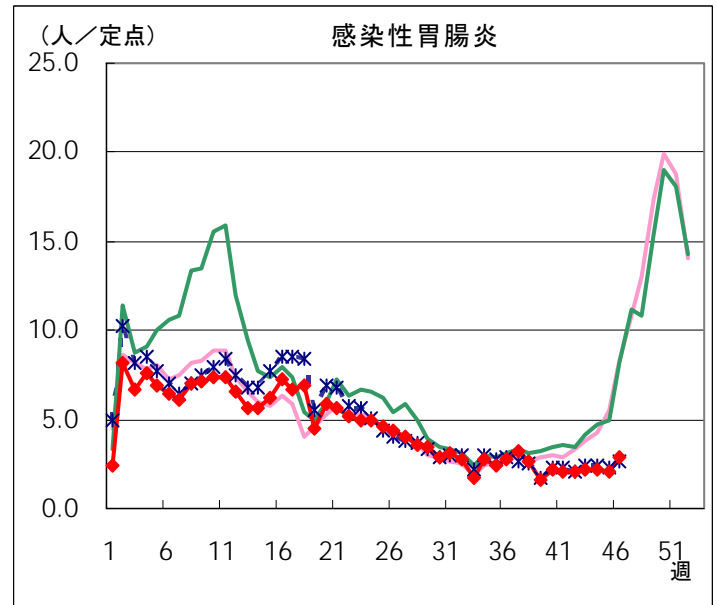
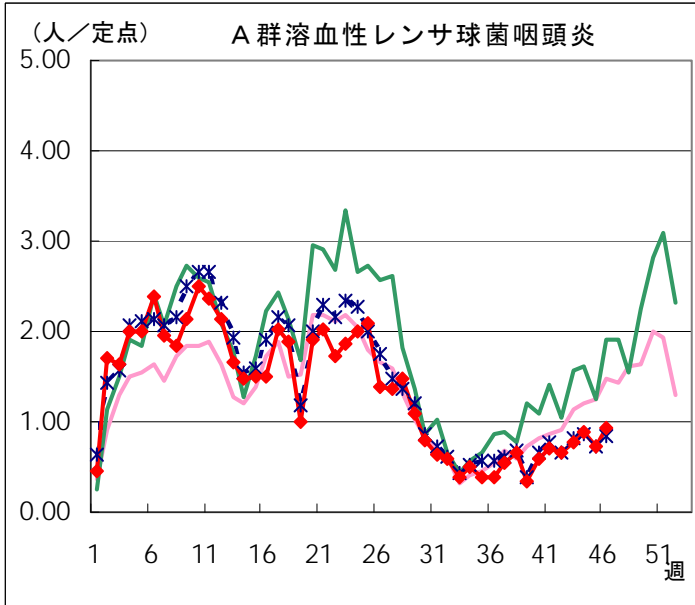
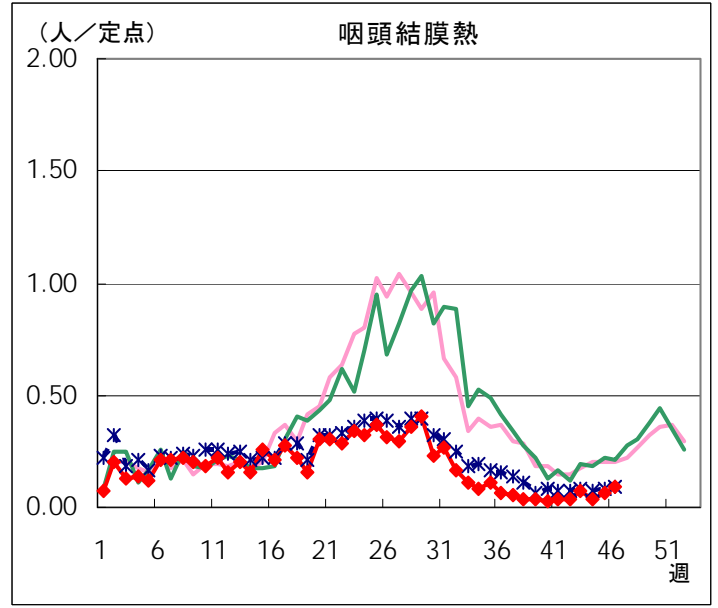
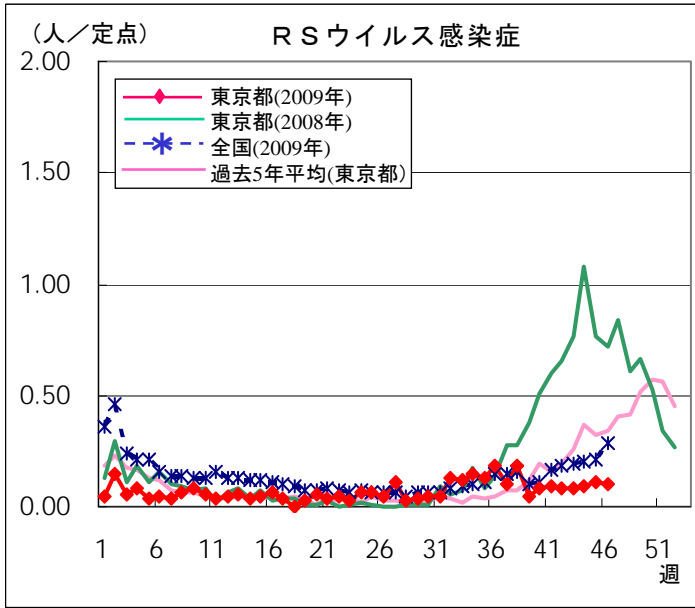
定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2009年46週

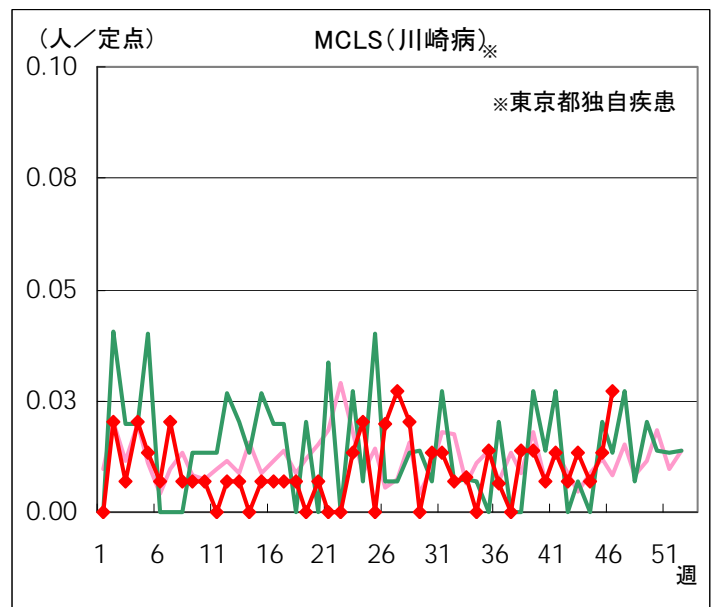
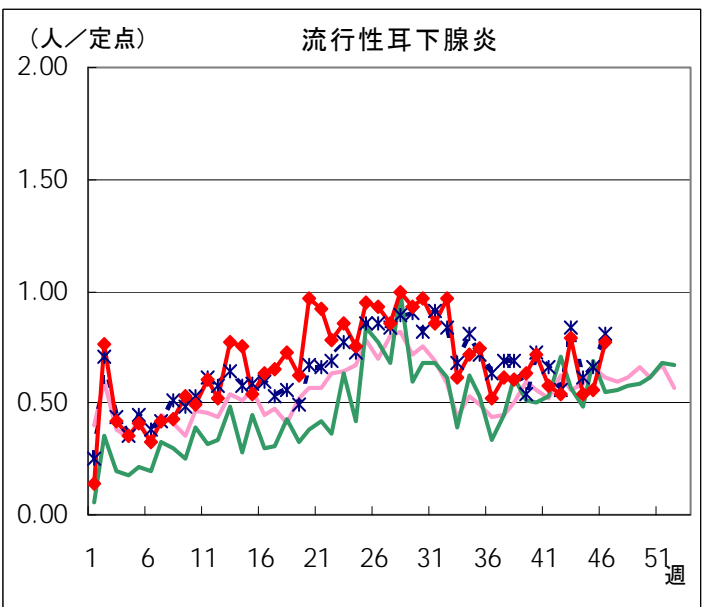
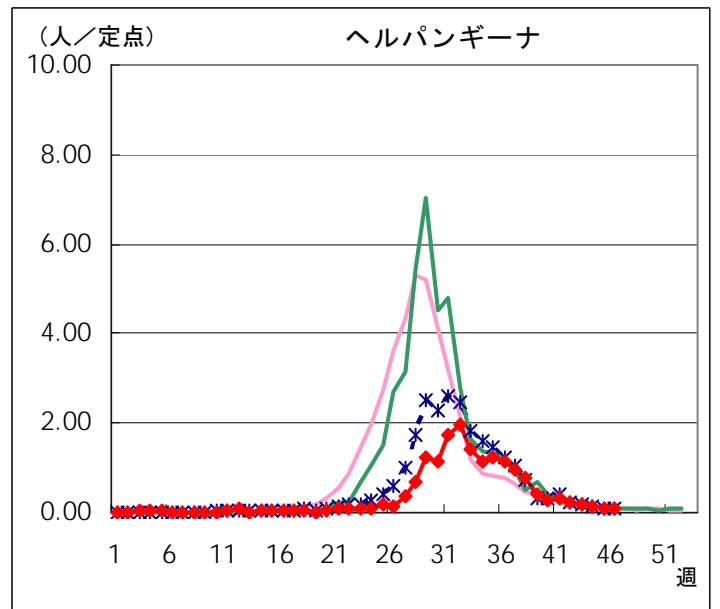
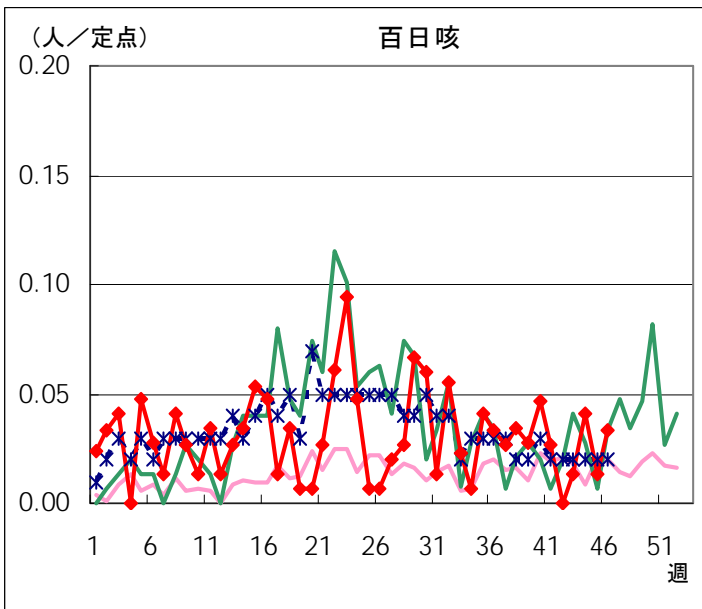
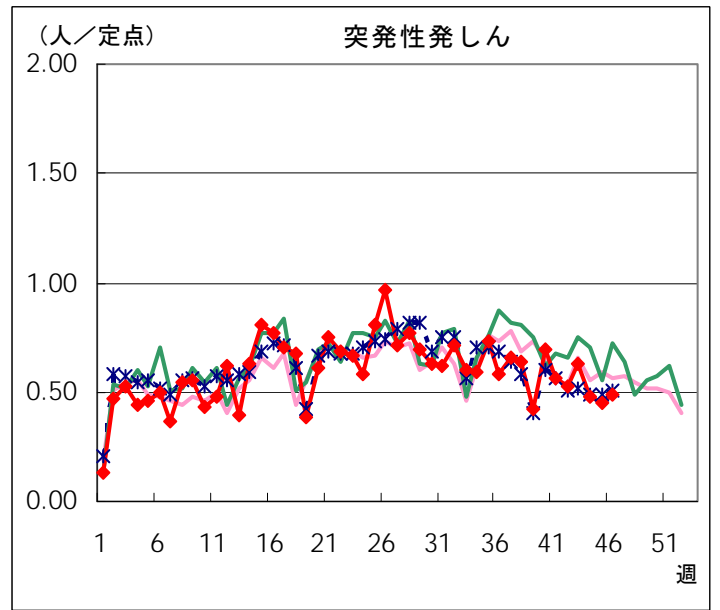
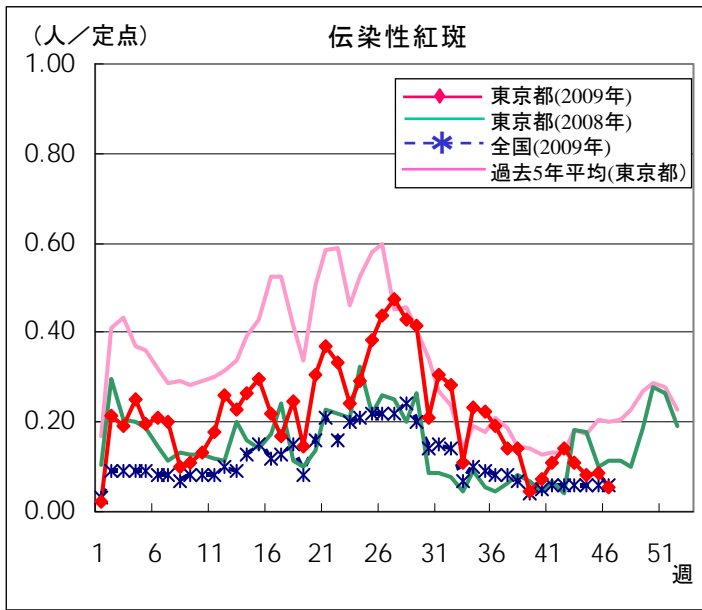
定点種別	小児科									
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田		0.67								
中央区			1.00	3.33	0.33			0.67		
みなと	0.50	0.50	0.67	1.50	0.50	0.33		0.33		
新宿区		0.17	0.33	1.83		0.17		0.33		
文京			0.67	3.00		0.67				
台東		0.67		2.67				0.33		
墨田区				0.33		0.67		0.33		
江東区	0.25		1.25	2.75			0.25	0.50		0.25
品川区			1.17	2.00	0.17	0.17		0.50		
目黒区		0.33		1.67		0.33		0.33		
大田区	0.33	0.33	0.44	8.78	1.78	0.11	0.22	0.89	0.56	0.33
世田谷			0.38	1.75	0.63	0.63		0.13		
渋谷区				0.50						0.25
中野区	0.17		1.33	4.67	1.67			0.17		
杉並			0.50	4.83	0.17			0.67		
池袋			0.20	1.20				0.20		
北区				1.00	0.25	0.50		0.25		0.25
荒川区			1.00	4.50	0.50			0.50		
板橋区			0.33	2.00		0.17	0.17			
練馬区			0.20	1.40	0.60	0.20		1.40		0.20
足立			0.60	1.60	0.40	0.40				
葛飾区			0.50	3.00	1.25	3.00		1.00		
江戸川			0.40	1.20		0.40	0.40	1.40		0.20
八王子市	0.50	0.25	8.00	7.50	1.75	0.75	0.25	1.25		
西多摩			0.20	4.60	0.40			0.40		
南多摩	0.25		0.50	2.50	0.50		0.25	0.25		0.50
町田			8.50	11.25	5.50	0.25		1.00		1.00
多摩立川				0.83	0.17					
多摩府中			0.44	0.22	0.33	0.11		0.44		
多摩小平	0.67	0.17	1.83	4.00	1.17	0.17		1.17		0.17
島しょ						1.00				
東京都	0.10	0.09	0.93	2.91	0.63	0.28	0.05	0.49	0.03	0.10

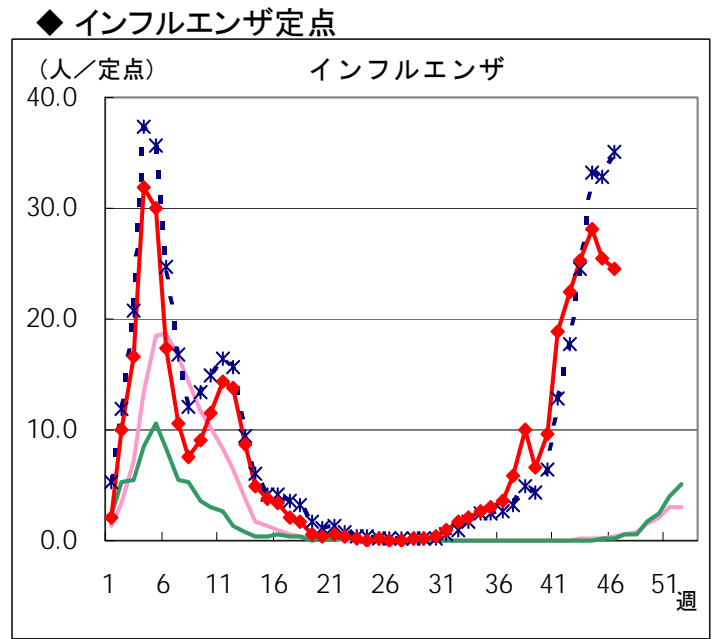
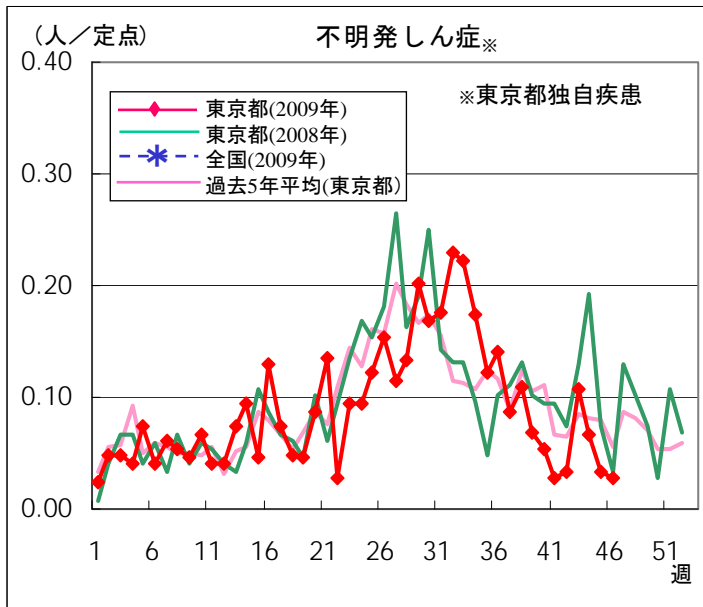
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	0.67			9.00		
中央区				9.25		1.00
みなと	0.83		0.17	13.63		
新宿区		0.17	0.17	18.22		
文京				15.40		
台東				30.40		
墨田区				24.33		1.00
江東区	0.75			18.00		
品川区				18.20	2.00	
目黒区				9.33		
大田区	0.22			27.56		
世田谷	0.13			19.31		
渋谷区	0.50			17.17		
中野区	0.33			12.56		
杉並				27.42		
池袋				14.00		
北区	0.75			21.75		
荒川区		0.50		22.25		1.00
板橋区	0.33		0.17	12.42		
練馬区	0.40			22.00		
足立	0.20			22.42		
葛飾区	3.00			31.78		
江戸川	1.00			34.33		0.50
八王子市	3.75	0.50		42.70		
西多摩	2.00			36.56		
南多摩	0.25		0.25	37.67		
町田	4.00			56.78		
多摩立川				18.85		
多摩府中	1.67			26.55		
多摩小平	2.50			36.93		0.50
島しょ				3.00		
東京都	0.77	0.03	0.03	24.57	0.05	0.13

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2009年46週現在

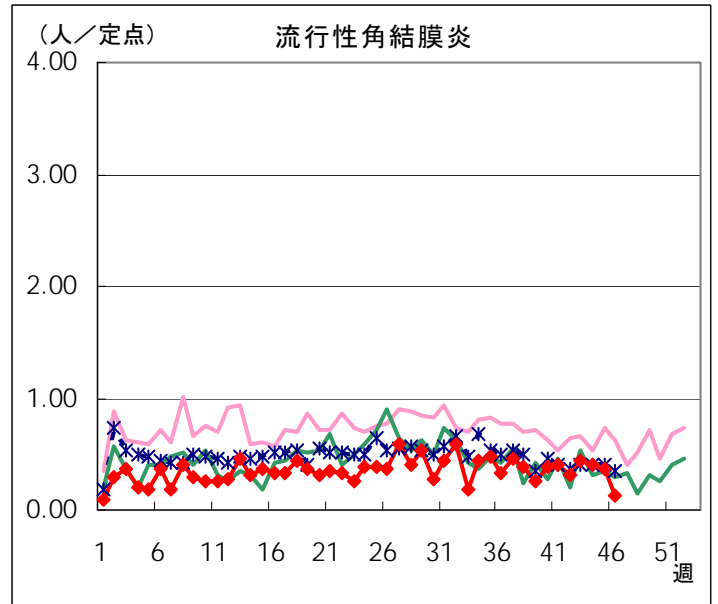
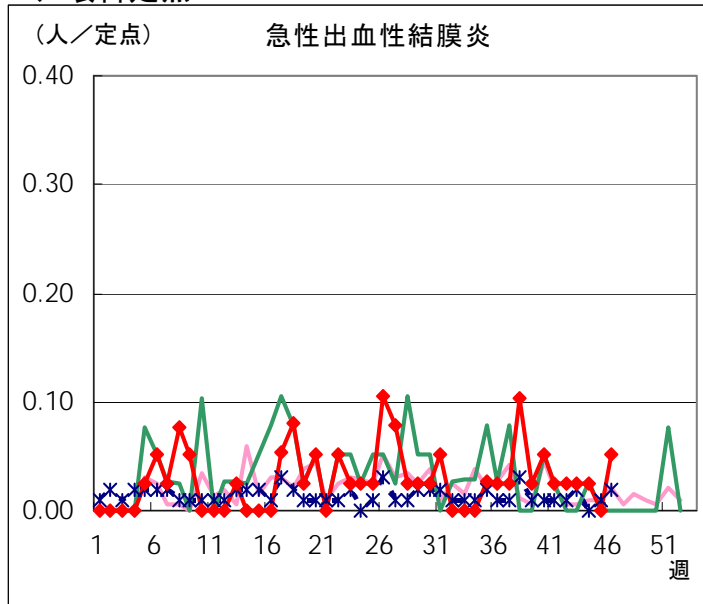
◆ 小児科定点



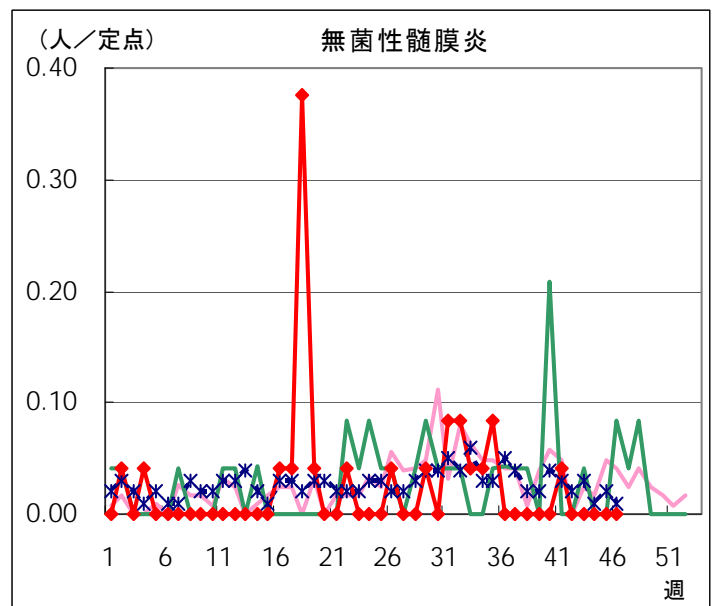
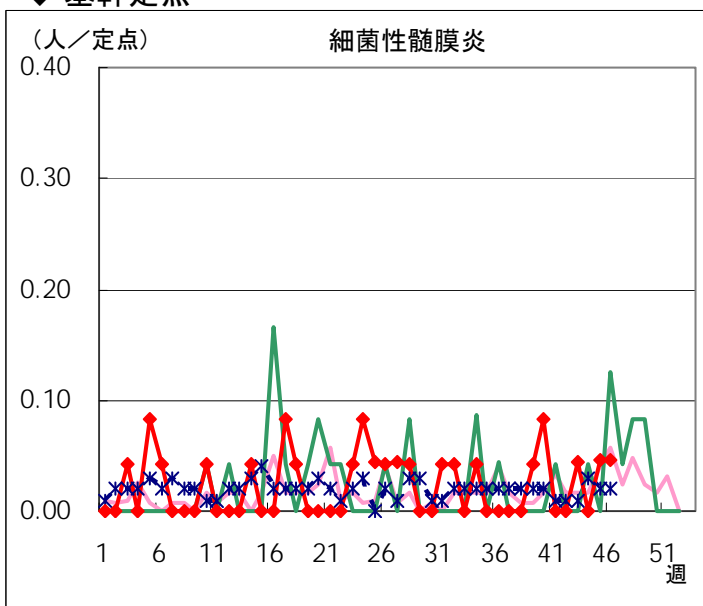


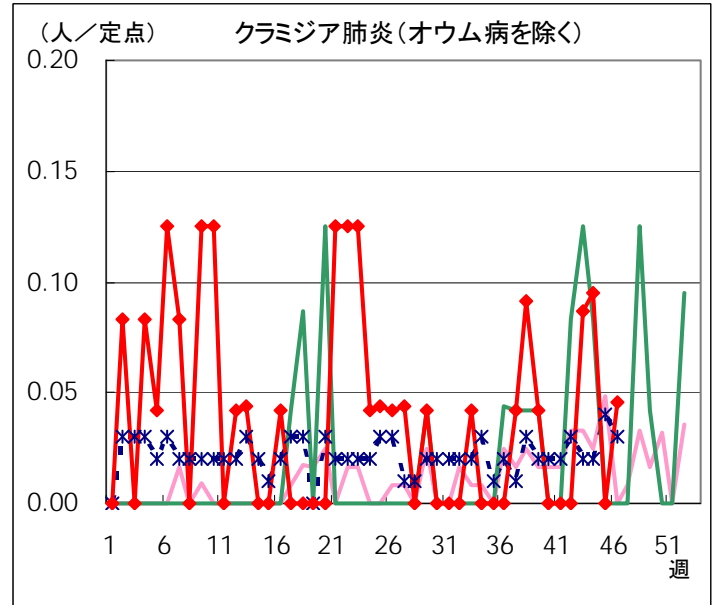
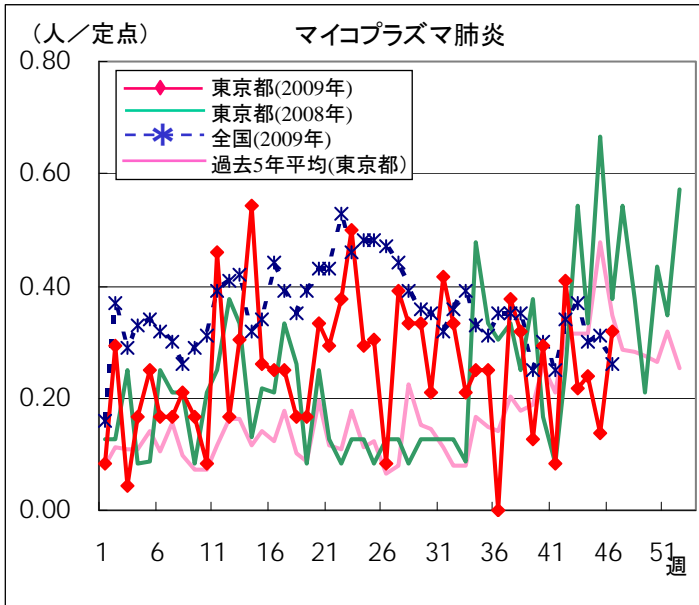


◆ 眼科定点

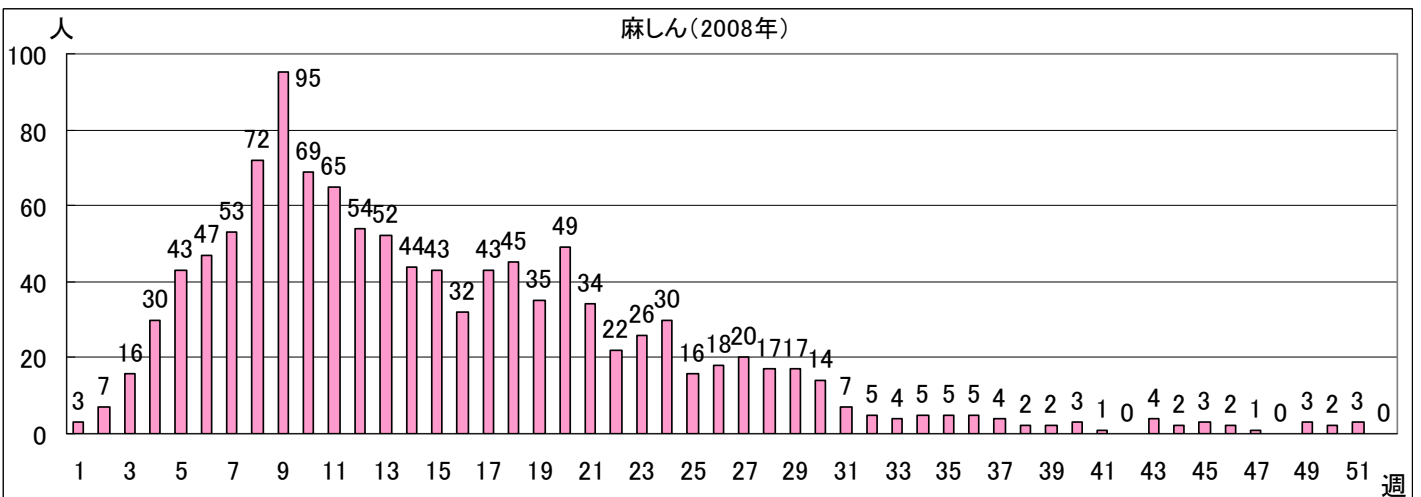
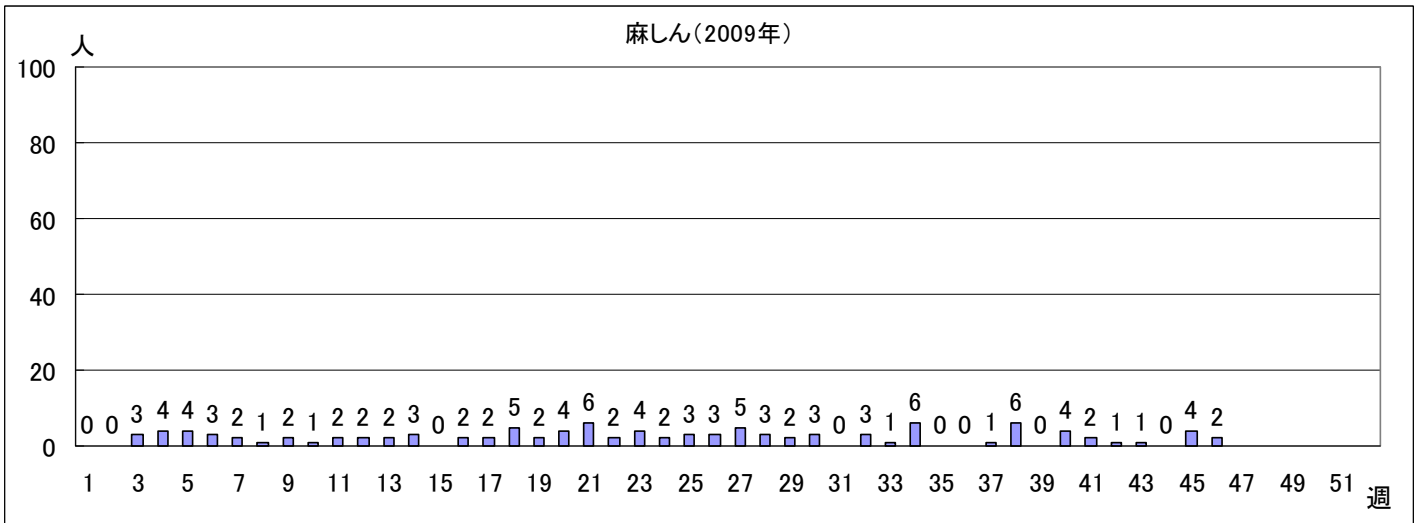


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2009年46週現在



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果等に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
みなと	14		
	41		
新宿区	13		
	65	1	B型:40歳代。
	14		
江東区	41		
	24		
目黒区	8		
	31		
	11		
大田区	55		5名は臨床診断。
	6		
	13		
	11		
	35		
			患者28名。
世田谷区	15		その他A、B型同時陽性1名。
	2		
	41	1	
	18		
中野区	13		A型の3歳児。他院にてインフルエンザの診断を受け、タミフルのみを処方されていましたが解熱せず、咳嗽悪化のため受診。肺炎のため転送入院となりました。
	2		
	25		
	18		
	6		
	17		患者18名。
	10		
	7		
	10		型不明3名。
池袋	10		
	27	1	
	7		

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
北区	43		5名は臨床診断。
			患者27名。週後半より患者数が急激に減少したように思えます。
	5		
			患者35名。最も多かった時期より少し減少してきているようです。年齢層は10代より両方に広がっています。
	13		
板橋区	20		
西多摩	2		
	104		
	3		患者5名。
多摩立川			患者5名。
	9		患者22名。
多摩府中	27		
			患者36名。A、B型同時陽性1名。
八王子市	45		20名は臨床診断。
	72		
	1		
	8		
	14		
	80		
	144		

病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
10/5	感染性胃腸炎	22	直腸拭い液	ライノウイルス	遺伝子
10/20	不明熱	2	咽頭拭い液	ライノウイルス	
10/31	インフルエンザ	3	咽頭拭い液	アデノウイルス	
11/1	流行性耳下腺炎	5	咽頭拭い液	ライノウイルス、ムンプスウイルス	
11/2	伝染性単核球症	記載無し	咽頭拭い液	EBウイルス	
11/3	無菌性髄膜炎	記載無し	髄液	エンテロウイルス	
11/4	水痘様発しん症	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6, 7型 単純ヘルペスウイルス1型	
11/4	胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス	
記載無し	流行性角結膜炎	8	結膜拭い液	単純ヘルペスウイルス1型	

◇定点医療機関から搬入された検体の遺伝子検査法による亜型

亜型検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型)*
45週	0	0	0	17
今シーズン累計**	1	0	0	318

* 新型インフルエンザウイルス(ブタ由来インフルエンザウイルスA/H1N1)。

**新シーズン(2009-2010シーズン)の開始は第36週(8月31日~9月6日)。

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2009年							
		38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週
ウイルス	アデノウイルス		4	3	3	3	4	3	1
	ライノウイルス		5	2	3	3	11	5	3
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス		8	3	2	10	2	1	1
	単純ヘルペスウイルス								2
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7		3	1	3	6	5	2	2
	EBウイルス		4			2		2	1
	サイトメガロウイルス			1	2		1	1	
	ムンプスウイルス		1		3	1		1	1
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19		1						
	RSウイルス		6		1		2		
	ノロウイルス							1	1
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3								
	インフルエンザウイルスB								
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	37	31	22	51	36	32	41	17	
デングウイルス(抗体を含む)									
その他のウイルス									
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌						7		
	その他の細菌				1				
その他の病原体			2						

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2009年38週～2009年45週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	336	28	61	26	33	1		1	1	4	2	10	9			3	114	
ウイルス	アデノウイルス	5	2	9	1					1							3	
	ライノウイルス	8		14	2							3	1				4	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	2	5	3	1	3	1		1	4		1	1			1	4	
	単純ヘルペスウイルス																	2
	水痘・帯状疱疹ウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7					1						7	1					13
	EBウイルス								1			2	3				1	2
	サイトメガロウイルス		1		1							2	1					
	ムンプスウイルス					3								4				
	麻疹ウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											1						
	RSウイルス			9														
	ノロウイルス				2													
	ロタウイルス																	
インフルエンザウイルスAH1																		
インフルエンザウイルスAH3																		
インフルエンザウイルスB																		
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	262		5															
デングウイルス(抗体を含む)																		
その他のウイルス																		
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌		7															
その他の細菌			1															
その他の病原体			2															

月報告 定点把握対象疾患 報告数 2009年10月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり 報告数	報告医療 機関数	定点医療 機関数
性 感 染 症	性器クラミジア感染症	男	115	2.13	54	55
		女	85	1.57		
	性器ヘルペスウイルス 感染症	男	61	1.13		
		女	24	0.44		
	尖圭コンジローマ	男	32	0.59		
		女	26	0.48		
	淋菌感染症	男	74	1.37		
		女	11	0.20		
	膣トリコモナス症*	男	0	0.00		
		女	13	0.24		
梅毒様疾患	男	8	0.15			
	女	2	0.04			
基 幹	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	男	55	2.39	23	24
		女	21	0.91		
	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	男	19	0.83		
		女	14	0.61		
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	男	1	0.04		
		女	2	0.09		

2009/11/16

* 性感染症定点から報告される『膣トリコモナス症』とは、原虫の一種である膣トリコモナス(Trichomonas vaginalis)による疾患を指し、女性の膣、男性の尿道、前立腺などの生殖器や泌尿器に寄生して引き起こされる感染症である。ヒトに寄生するトリコモナスには、他に口腔トリコモナスや腸トリコモナスがある。

月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【年齢階級別】2009年10月

男						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	2					
20～24歳	18	2	1	11		
25～29歳	21	5	9	22		2
30～34歳	20	12	6	8		
35～39歳	18	11	4	14		3
40～44歳	11	9	6	6		2
45～49歳	9	4	2	4		
50～54歳	3	8	2	4		
55～59歳	8	4		4		1
60～64歳	4	3	1			
65～69歳	1	2	1			
70歳～		1		1		
合計	115	61	32	74		8
先月数	114	51	51	67		9
増減数	1	10	-19	7		-1

女						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳	1	1		1	1	
15～19歳	8		1	1	1	
20～24歳	31	2	10	1	1	
25～29歳	20	6	5	3	4	
30～34歳	14	8	3		1	1
35～39歳	8	4	5	2	3	1
40～44歳	3	1	1	1		
45～49歳				2	1	
50～54歳		1				
55～59歳						
60～64歳			1			
65～69歳					1	
70歳～		1				
合計	85	24	26	11	13	2
先月数	95	39	19	13	13	
増減数	-10	-15	7	-2		2

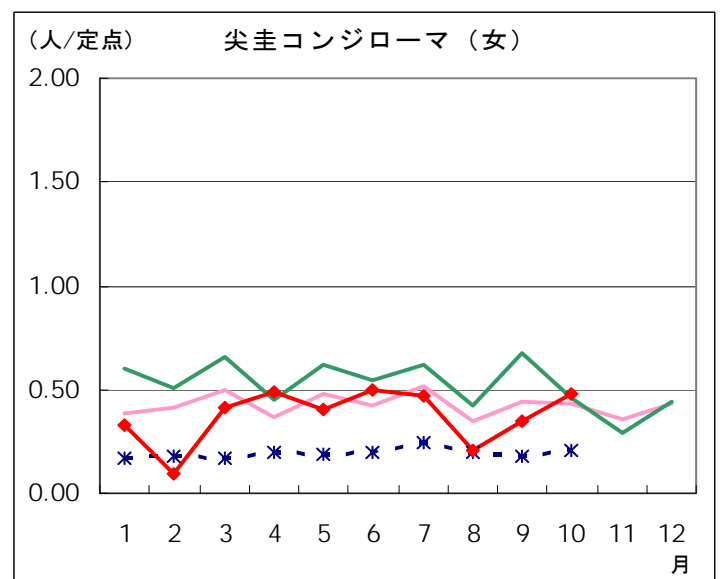
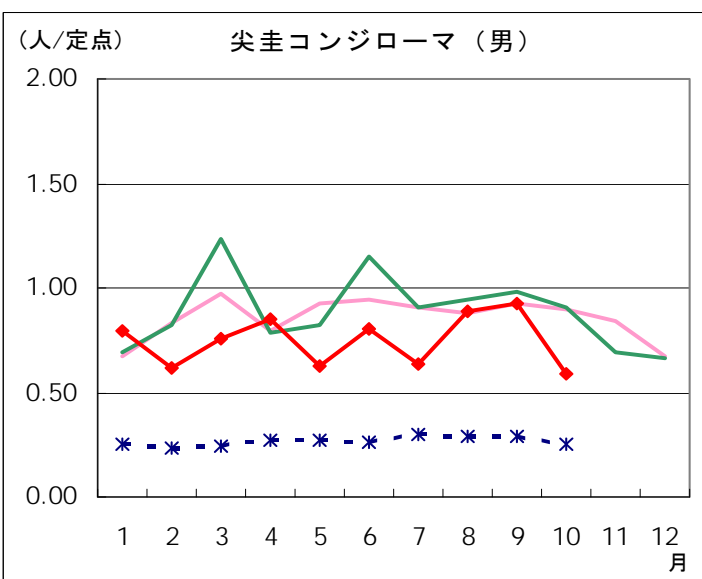
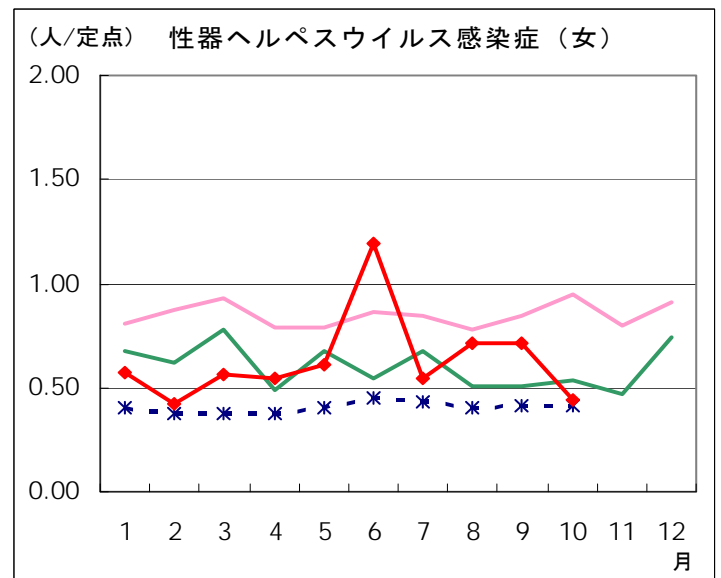
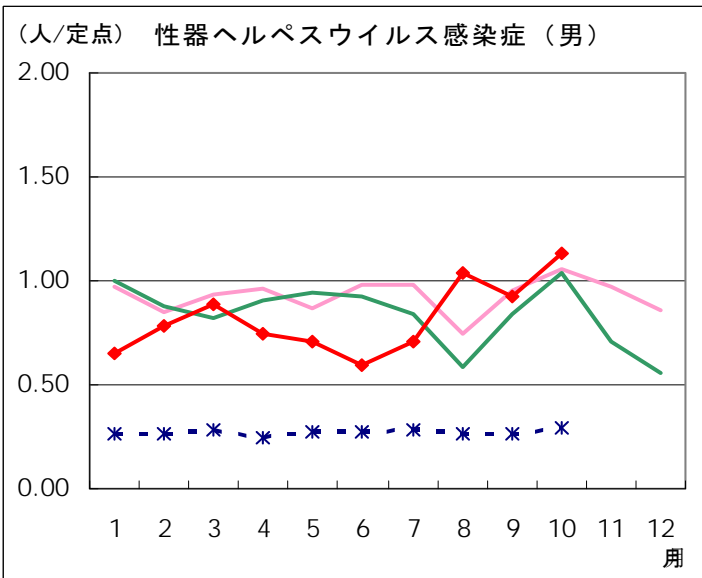
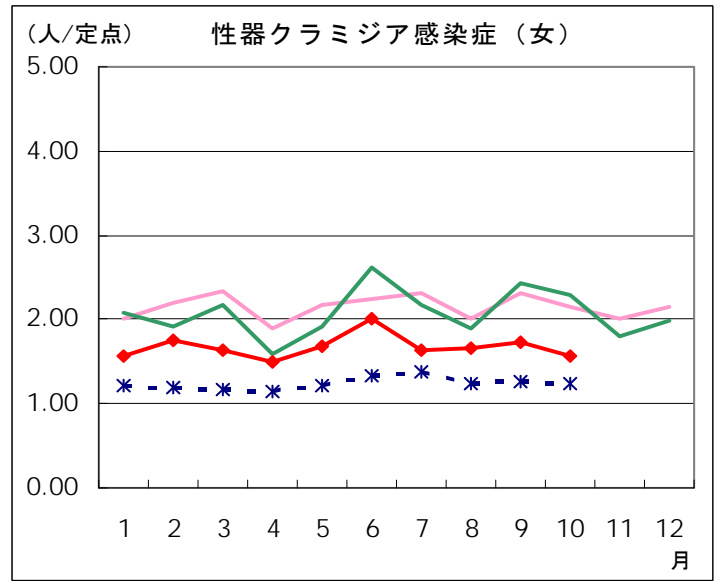
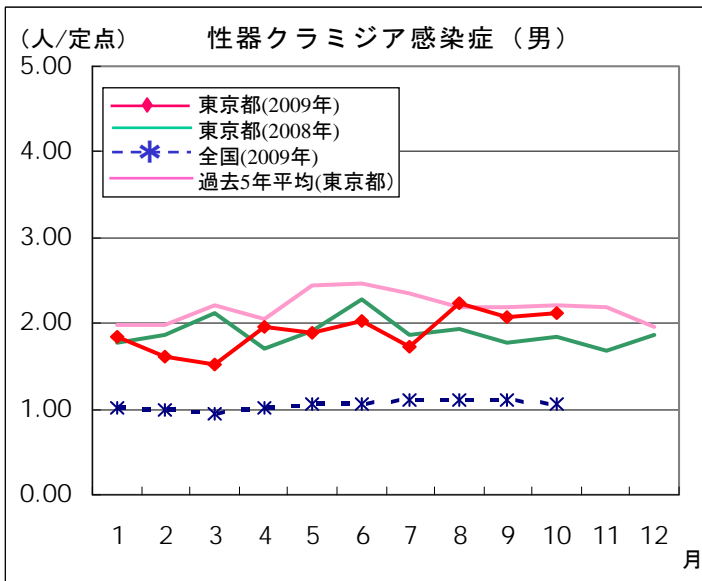
月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2009年10月

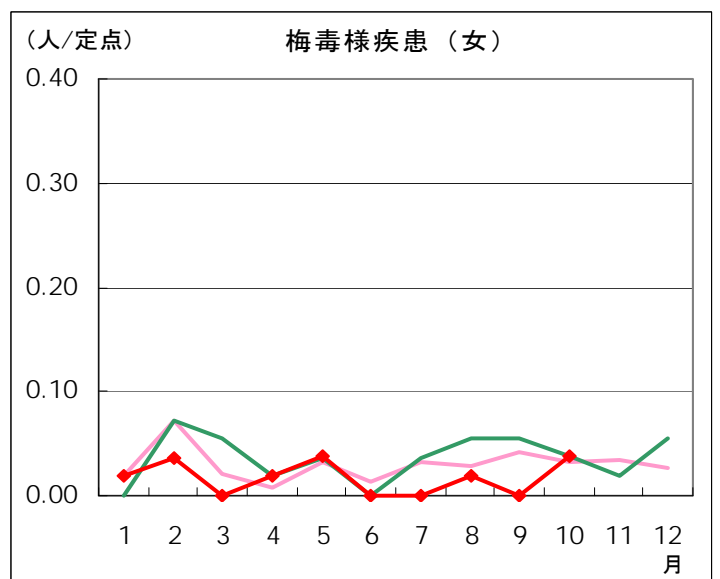
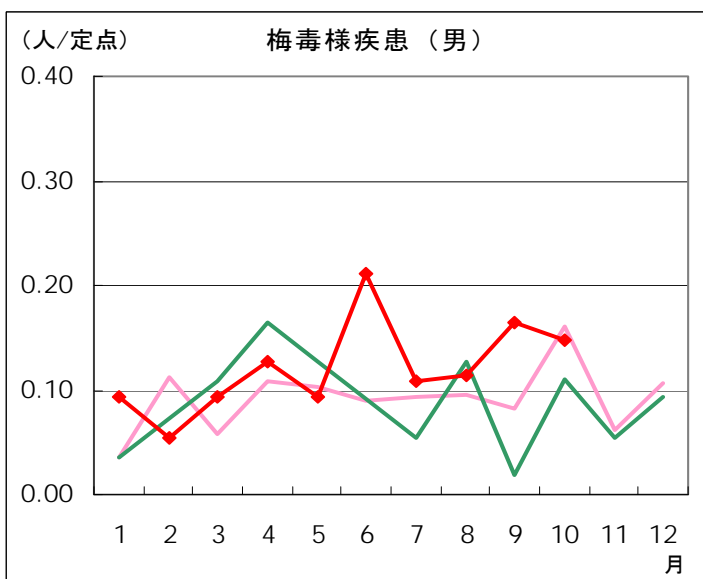
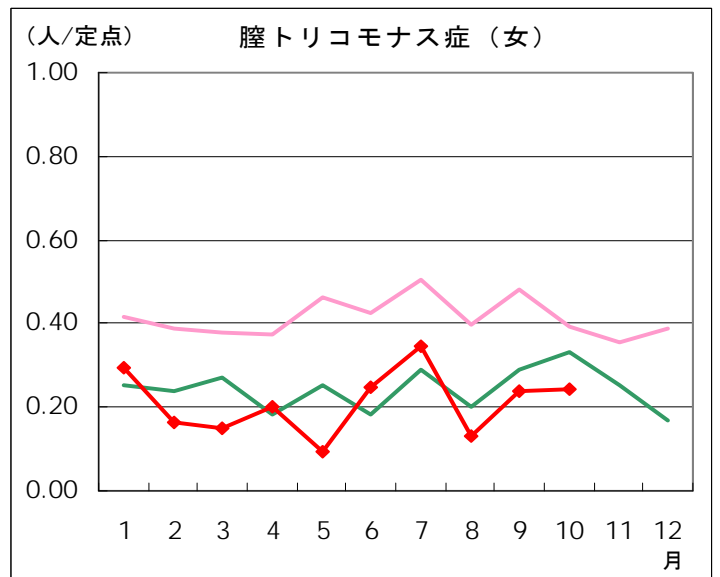
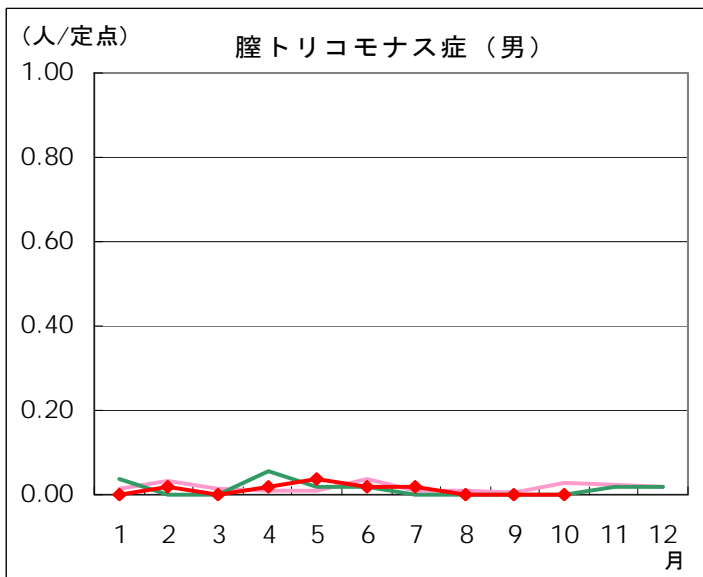
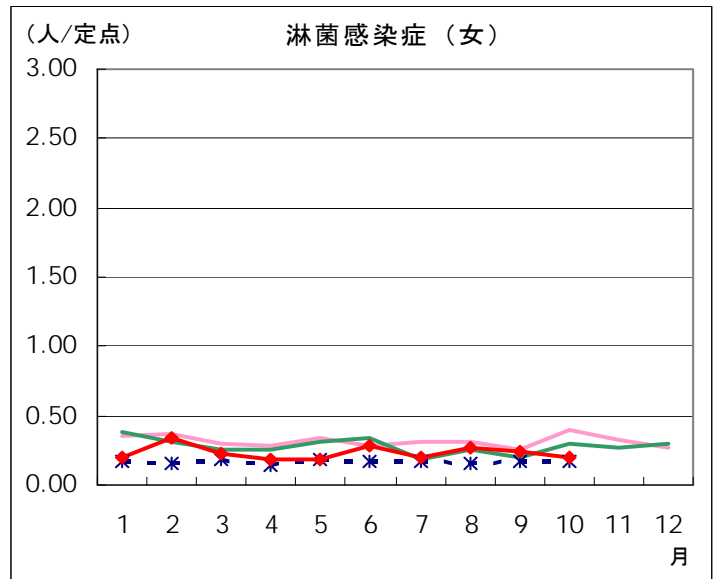
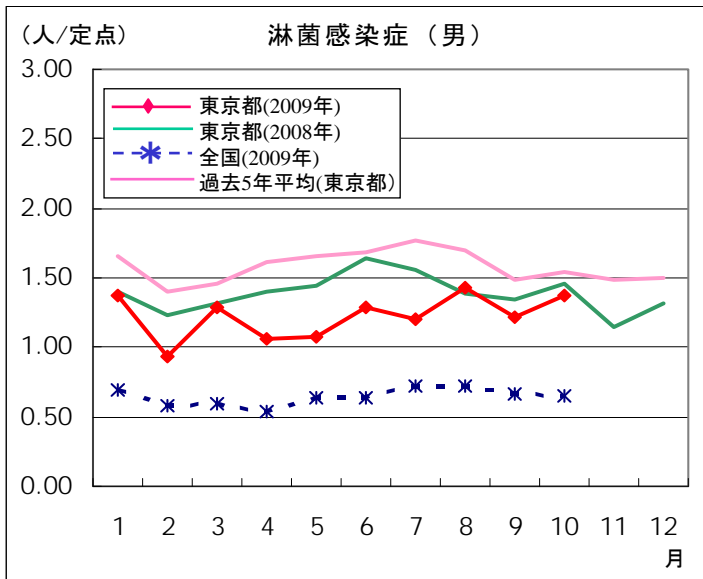
男							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	14	3	4	9		
中央区	3	10			1		
みなと	2	9	25	6	4		1
新宿区	7	26	9	9	26		5
文京	1	2		1	2		
台東	2						
墨田区	2	1	1				
江東区	2	12	12	2	7		2
品川区	1	4			1		
大田区	2	2			1		
渋谷区	5	8	4	1	1		
中野区	2	3			4		
杉並	1						
池袋	3	13	6	7	8		
北区	1	2					
荒川区	1						
板橋区	2			1			
足立	2	4	1		5		
江戸川	2	2		1	3		
八王子市	4	1					
町田	1						
多摩立川	2						
多摩府中	3	2			2		
多摩小平	1						
合 計	54	115	61	32	74		8
定点当たり		2.13	1.13	0.59	1.37		0.15

女							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	2					
中央区	3	3	1				
みなと	2	3	4		1		
新宿区	7	8	4	3	3	1	
文京	1						
台東	2	1				2	
墨田区	2			1			
江東区	2	3	1		2		
品川区	1						
大田区	2	1		1			
渋谷区	5	4	6	11	1	2	
中野区	2	1		1	1	1	
杉並	1	2					
池袋	3	10	1	3	1		
北区	1						
荒川区	1	5	1				
板橋区	2	5				1	
足立	2						
江戸川	2	5	1	2	1	1	2
八王子市	4	14	2	3		2	
町田	1	1	1			3	
多摩立川	2	15	2		1		
多摩府中	3			1			
多摩小平	1	2					
合 計	54	85	24	26	11	13	2
定点当たり		1.57	0.44	0.48	0.20	0.24	0.04

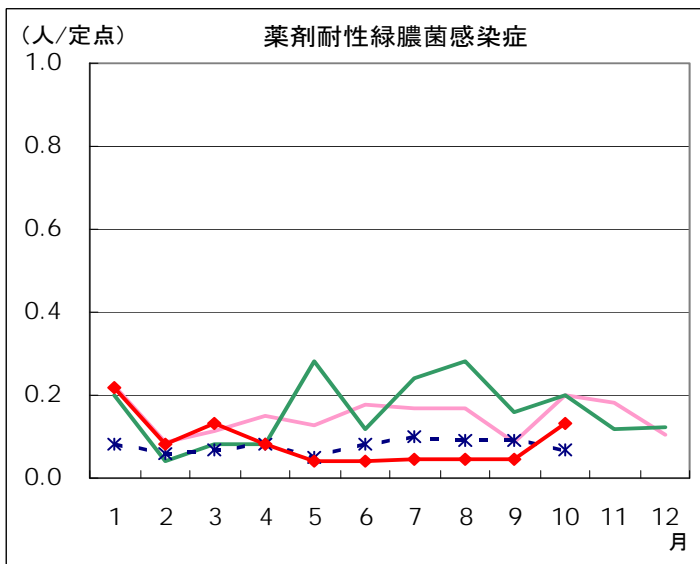
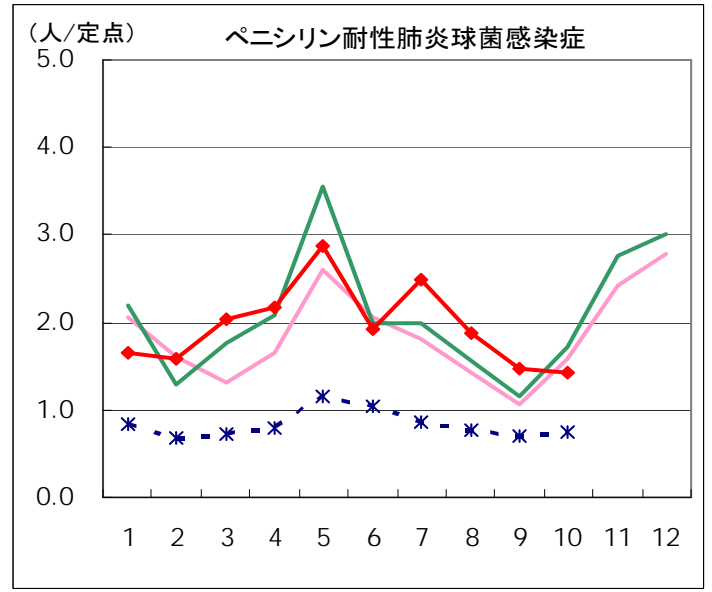
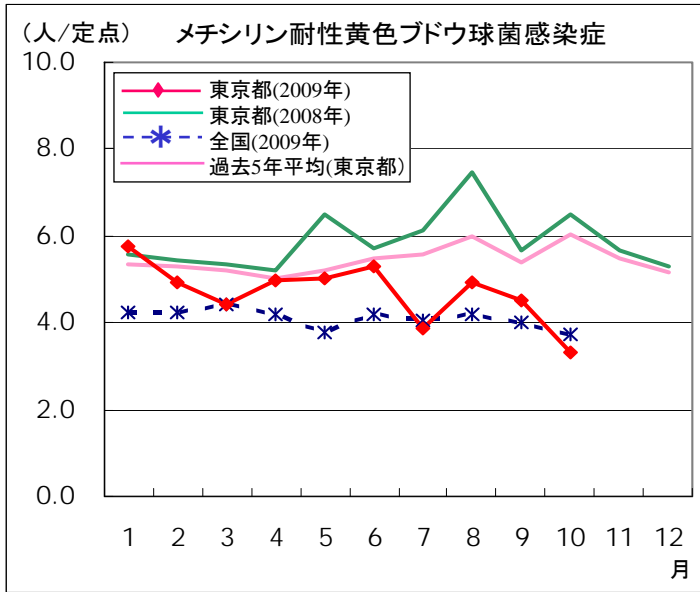
月報告 定点把握対象疾患報告数【月別発生状況】 2009年10月現在

◆ 性感染症定点





◆ 基幹定点



月報告 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体受付日の順に掲載しています。

受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法
10/1	記載無し	28	男	尿	クラミジア	遺伝子
10/6	陰茎ヘルペス	50	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス2型	
10/8	陰茎ヘルペス	55	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス2型	
10/8	淋菌性尿道炎	39	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア	
10/13	淋菌性尿道炎	41	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	
10/13	尿道炎	40	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア	
10/13	クラミジア膺炎	25	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア	
10/14	性器ヘルペス疑い	28	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス2型	
10/19	尖圭コンジローマ	25	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス11型	
10/19	尿道炎	38	男	尿	淋菌	遺伝子 分離同定
10/20	陰茎コンジローマ	26	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス6型	遺伝子
10/20	尿道炎	24	男	尿	淋菌	
10/26	子宮頸管炎	39	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア、淋菌	遺伝子 分離同定
10/26	尿道炎	56	男	尿	クラミジア	遺伝子

新しい日本脳炎ワクチン

従来の日本脳炎ワクチンは、日本脳炎ウイルスをマウス脳内に接種し、増殖したウイルスを精製し、ホルマリンで不活化した後、さらに精製したものであった。

このワクチン接種後に発症した重症の急性散在性脳脊髄炎（ADEM）がワクチンとの因果関係を疑われたために、平成17年5月に日本脳炎ワクチンの定期接種の積極的勧奨差し控えの勧告が出された。ADEMは、病理組織所見から脳脊髄のアレルギー性反応が疑われており、日本脳炎ワクチンは極めてよく精製されているとはいえ、原材料にマウス脳を使用しているために理論的な心配があるので、マウスを使わないワクチンの実用化が急がれていた。

新ワクチンは日本脳炎ウイルスをVero細胞で増殖させ、ホルマリンで不活化し精製して凍結乾燥したものである。この細胞はアフリカミドリザルの腎臓細胞由来の株化細胞（試験管やガラス容器内で植え継ぎながら増やすことができる）で、ポリオの不活化ワクチンなどの製造に世界的に用いられている。

新ワクチンは、効果と安全性試験の済んだ一期の定期接種に用い始められているが、現在のところ製造量が限られているため積極的勧奨には至っていない。二期については、効果・安全性が確認されるまで用いることができない。

二期についても新ワクチンが使用できることが確認され、必要ワクチン量の確保もできれば、これまで接種できないでいた者への接種方法等（定期接種として認める範囲など当面の対応）も示されることになっている。

新ワクチンの副反応については、これまでのところ重篤な例の報告はない。

（文責・（社福）恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所名誉所長 平山宗宏）